



## 「ハイブリッド・エコ・ハートQ住宅の科学」④ エネルギー自活住宅の考え方

1・2pの紹介

史幸工務店では、左写真の「ハイブリッド・エコ・ハートQ」④エネルギー自活住宅の考え方、他、住宅に関連する環境について、4分冊の小冊子を発行しております。住宅建築は、単に住宅を建てればよいというわけではなく、断熱性能などさまざまな数値によって性能管理が行われています。住宅の性能には、明確な基準があり、素材の採用や施工方法にも明確な根拠があります。それを項目毎にまとめたのが上記の小冊子です。これから順次、抜粋してご紹介致しますが、本冊子に興味のある方は、電話・インターネット等でお申し込み頂ければ差し上げます。

# いまから始まる、本格的な太陽光発電の幕開け！

### ◎今まで待った、貴方は偉い！

太陽光発電には、平成 25 年度まで国が補助金を支給していましたが、現在は「環境省ZEH支援事業」と「経済産業省ZEH+実証事業」等の特殊な補助金以外、一般的な補助金は支給されていません。これからは一般の補助金が復活することはありません。そのため、「太陽光発電の導入時機を逸した」と残念がっている方も多い様ですが「実は貴方の判断は、正しかった」のです。国の補助金制度が無くなったいま、設備価格も普及価格になり、本格的な太陽光発電の普及時代が始まっています。

### ◎補助金制度後の太陽光発電の行方！

太陽光発電の補助金制度は、高額な設備を普及させるための手段で、多くの賛同者のお蔭で、我が国の太陽光発電は、大幅に普及しました。それに住宅メーカーの新築と太陽光発電を組み合わせた、ビジネスモデルも開発されて、弾みがつき 10kW以上の産業用も含めて、新築+産業用太陽光発電のセット建築等により、住宅ローンの軽減に繋がっている方も多くいらっしゃるようです。自然条件に左右され、更に思わぬ故障なども考慮する必要がある、高額投資ですから、経営理念のしっかりとした会社で、シミュレーション通りの最終ゴールを迎えられる事を願ってやみません。

平成  
21年 11月 FIT 買取開始  
22 補助金制度 高額設備の時代  
23 補助金無しでは 設置が不可能  
24  
25 補助金なし  
26 補助金なし 等身大の設備費  
27 補助金無しでも 設置が可能  
28  
29  
30  
令和1年11月10年間の家庭用売電終了の開始年)

待ってた  
貴方は偉い

太陽光発電・面壁八年

太陽光発電の夜明けぜよ！

今なら  
導入しても  
大丈夫ぜよ！

早期導入の貴方も偉い！

平成23年3月11日  
福島原発事故！

私達の早期設置が  
役立ちました！

平成21年  
のFIT(固定買  
取制度)により太陽光発電が  
普及し、平成23年の福島原発  
事故で、全ての原発が停止し  
ても、電力不足を防ぐ事が出  
来ました。FIT買取制度から  
たった3年で太陽光発電は、原  
発を補完するまでに普及して  
いたのです。これは早期導入  
を決意した皆様のお蔭です。

# 太陽光発電は補助金の必要が無い、普及期の到来？

## ◎補助金受け取りにはリスクも伴う？

太陽光発電の補助金の目的は、初期投資額の負担を軽減し、設備の導入を増やすことでした。「補助金が貰えるのに、貰わなければ損だ」と思う方もおられると思いますが、高額な初期投資の割に売電価格が低額で抑えられ、その分返済額の負担が欧米と比較すると過大になったかもしれません。

## ◎高額な初期投資を補助金で中和？

### ●太陽光発電 国の補助金額の変遷 表・1

年度	補助金	受給条件(システム価格)
平成20年度	7万円/kW	70万円/kW以下
平成21年度	7万円/kW	70万円/kW以下
平成22年度	7万円/kW	65万円/kW以下
平成23年度	4.8万円/kW	60万円/kW以下
平成24年度	3.5万円/kW 3万円/kW	35~47.5万円/kW 55万円/kW以下
平成25年度	2万円/kW 1.5万円/kW	41万円/kW以下 50万円/kW以下
平成26年度 以降	補助金なし	—

表・1のように、初期の太陽光発電は導入コストが高くて普及は容易でなく、太陽光発電の補助金は、設置者のメリットを増やすためよりも、導入を促す「あめ玉」の役割がありました。補助金の財源は全国の家から徴収した「再エネ賦課金」ですから、ドイツのように我が国も80円程度の買い取り価格でも良かったのですが、「設置者は補助金だけでも、得になるのに売電価格でも得をするのはおかしい」というのが国の考え方でした。

売電価格は安かったって！



全国の家から集められている「再エネ賦課金」は、現在、2兆円」だって、ドイツ並みに倍くらい払っても問題なかった訳だよな～！

設備費70万円－補助金7万円＝63万円/kW

当初の産業用太陽光発電10kWの設備費  
63万円×10kW＝630万円

平成20・21・22年までは、この価格でローンが組まれ、24年には、設備費が半額になり、30年には、最安値で太陽光発電の設備費は20万円弱に低下しています。

私達の場合もWローンです。

返済シミュレーション通りに推移しています。信じて良かった！



電気料金と金利の上昇が心配でしたが、10年経過後の来年が楽しみ！

太陽光発電10kWの設備費

①63万円×10kW＝630万円(補助金70万円)

②新築住宅費用＝2500万円(30坪)

合計3130万円のダブル・ローンを支払っています。

信頼出来る施工店に相談してください。

